

大人のための  
**歯科講座**

「歯科治療の新潮流」

＝⑭＝

前回は低侵襲インプラント治療の方法の1つとして、細いインプラントの傾斜埋入について紹介しました。今回は短いインプラント(7mm以下)であるショートインプラントについて紹介します。インプラントを埋入するための骨の高さが不足している部分は上顎、下顎ともに後方の

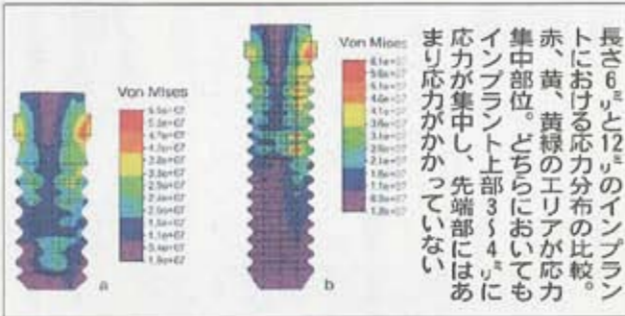
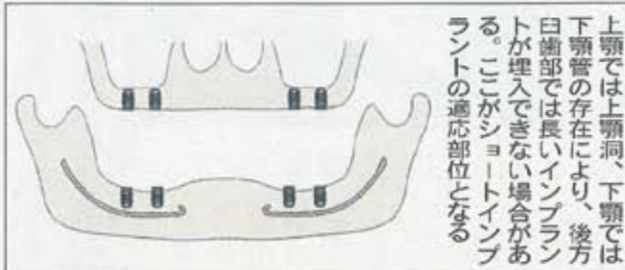
前回は低侵襲インプラント治療の方法の1つとして、細いインプラントの傾斜埋入について紹介しました。今回は短いインプラント(7mm以下)であるショートインプラントについて紹介します。インプラントを埋入するための骨の高さが不足している部分は上顎、下顎ともに後方の

ルースセントデンタルクリニック院長 後藤 英夫  
 <略歴> 1998年、東京医科大学歯学部卒業。名古屋大学医学部遺伝子再生医療センター医員、国立長寿医療センター歯科口腔外科勤務などを経て、2008年からルースセントデンタルクリニック副院長。2011年から院長。

ショートインプラントは大丈夫？

安全・再治療面で優位  
体への負担も少なく

臼歯部です。上顎は上顎洞という空洞の存在、下顎は神経、血管が通る下顎管の存在が影響しています。インプラントが上顎洞に突き抜けたり、下顎管に触れると上顎洞炎や下歯槽神経麻痺という偶発症につながりますから、埋入できる長さには制限があります。インプラントに求められる長さについてはできるだけ長い方がいいと考えられた時代がありました。現在では手術時に十分な固定(初期固定)を得るために長いインプラントを用いる場合もありますが、インプラント体



上顎では上顎洞、下顎では下顎管の存在により、後方臼歯部では長いインプラントが埋入できない場合がある。ここがショートインプラントの適応部位となる

とを考えたとしても短いインプラントには優位性があります。方向がたとえずれても短ければそのずれは最小限でとまります。方向のずれは、インプラントが長くなると大きくなり、骨量が5〜6mmの

前後、骨造成した方では80%〜97%とばらつきがあります。骨造成は術者の経験、技術で結果が大きく違ってきます。またたとえインプラントを撤去しなくても、短ければそれだけ